

1. はじめに

みなさんは情報モラルの授業をどのように実践されているだろうか。私が情報科ができて初期の頃の失敗は、一方的に「・・してはいけない、・・に気をつけよう」という説教のような知識を教え込んでしまい、生徒の意欲を失わせる授業をしてしまった。

また情報モラルで取り上げるテーマも、新しい機器・サービスの出現で次々と進化していく。例えば数年前の授業記録を見るとプロフをとりあげていたが、今このサービスを利用する生徒はほとんどいない。このように情報モラルで扱うテーマは、生徒に実情に寄り添ったものである必要がある。私も生徒が利用しそうな Mixi、Twitter、LINE、Facebook など SNS のサービスは全て利用しているが、それらのサービスについて、全て理解できているとは思えない。

このような現状から、全国高等学校情報教育研究会の発表で、以下のようなことをよびかけてみた。

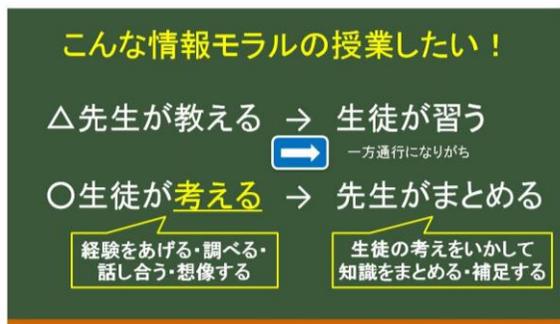


図1 全国高校情報教育研究会発表スライドより

「情報モラルの授業を教師が一方通行で教えこむのではなく、生徒に考えさせることから始めませんか？」という私のこだわりである。

生徒は情報社会の真ただ中で育ち、早くからこれら情報機器に接し、ときには問題もあるが工夫をしながらサービスを使いこなしている。この生徒の経験や知識を話し合いや発表で共有させ、お互いの

知識から学び、またこれら生徒の意見をもとに授業者が授業を構成する。このような授業の方が、より生徒の実情に寄り添うことができ、かつ聞くだけの授業より生徒の関心や教育効果が高まると考える。

そこで今回は昨年話題となった「不適切な画像投稿」による事件を題材に、生徒に考えさせる作業を中心とした授業を企画した。

2. 授業実践の背景

2013年7月の「コンビニエンスストアの冷蔵庫にアルバイト学生が入り投稿した画像」が、ネット上に拡散し問題化した事件以降、若者を中心に不適切な行動を写した画像を SNS に投稿し、拡散され問題化する事象が多発している。

この背景には、携帯電話のカメラ機能など簡単に撮影できる環境がそばにあり、かつ簡単に画像が投稿できるサービスがあるという情報社会の問題もあるが、インターネット上の情報の特性である「残存性」（＝一度広がった画像は取り消すことができない）、「複製性」（＝デジタル化された画像は質をおとさず短時間で複製できる）、「伝播性」（＝瞬時に世界に向けて広がる）といった情報発信に対する知識が不足していることも原因と考えられる。

こういった現状をふまえ、夏休み明けの2013年9月に、「情報発信」にしぼった情報モラルの授業を企画し、実践することとした。

3. 授業のねらい

授業の目標は「不適切な画像投稿」をおこさないだけでなく、賢く情報発信ができる力を育てることとし、以下のことを生徒に考えさせることを中心とした授業を企画した。

- ① 問題行動の画像投稿の背景を考える
- ② 事例から情報発信の責任を知る
- ③ 個人情報漏れにくい情報発信を考える
- ④ 自分の情報発信について考える

授業の進め方としては、教師が一方的に教え込む

のではなく、生徒が自らの経験をもとに「考える」「話し合う」活動を多く取り入れ、この話し合い結果をもとに、教師が知識を整理し補足する形とした。

4. 授業の展開

授業は勤務校の高校2年生(女子)の情報Cの授業の中で、2時間を使って実践した。

(1) 不適切な画像投稿の背景を考える

この時期、不適切投稿が次々とマスメディアでも取り上げられていた時期だったので、最初にきっかけとなった「不適切な画像投稿」の事件を紹介し「他にも知っている?」と聞くと、いくつもの事例がでてきた。タイムリーなテーマを扱う授業は、それだけでも生徒の興味を引き付けることができる。

次にこれら不適切な画像投稿が起こる原因・背景について、一人3つ以上考えさせ付箋に書かせた。この付箋をもとに、4人のグループで分析を共有し、KJ法で整理しながら話し合わせた。また各班1分程度で全体発表させることで、各グループの分析結果を共有した。

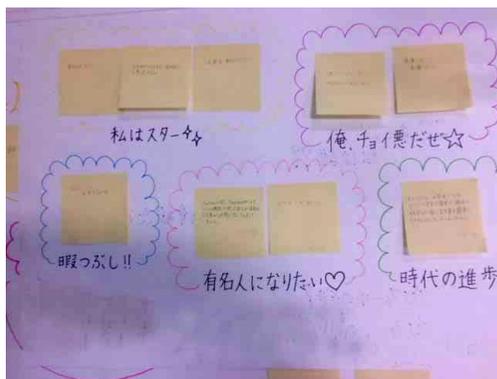


図2 生徒が原因をKJ法で整理した画用紙

「不適切な投稿」の原因・背景は?
(K2A・K2B話し合い結果より)

<p>そもそもモラルの問題...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目立ちたい <ul style="list-style-type: none"> - 悪乗り - カッコいいと思っている - 有名になりたい - 自慢したい ・ 無自覚・軽い気持ち <ul style="list-style-type: none"> - 笑ってもらえると思っていたから - 悪いことだと思っていない - 大事になるとは思っていない ・ 好奇心 <ul style="list-style-type: none"> - ふざけてやってみている - おもしろいから - 暇つぶし ・ ニュースに出たい 	<p>情報社会ゆえに...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなに見てほしい <ul style="list-style-type: none"> - 自分のサイトを見てほしい ・ SNSだから <ul style="list-style-type: none"> - リツイート・シェアを増やしたい - コメントを期待して - フォロワーを増やしたかった - フォロワーが見ているから ・ ネットの特性を知らない <ul style="list-style-type: none"> - 広がるとは思っていなかった ・ ネット環境が身近にある <ul style="list-style-type: none"> - どこでも撮影投稿できる環境がある ・ ネット環境に慣れている <ul style="list-style-type: none"> - 投稿することに抵抗が少ない - 投稿慣れして感覚がマヒ
---	---

図3 生徒の話し合い結果のまとめスライド1

生徒があげた原因を、授業者がインターネットとは関係がないモラルの問題と、情報社会が引き起こ

す問題の二つに大きく分けて整理した。

前者の代表的な意見としては、「目立ちたい」「軽い気持ち」「笑ってもらいたい」、後者の意見としては「ネット環境やカメラが身近にある」、「ネット投稿に慣れすぎて、投稿するの緊張感がない」、「友達だけに見せるつもり」といったものがあつた。

その中で納得させられたのは、「相手の反応が見える SNS ゆえに起こった問題ではないか」という意見であつた。先ほどの「目立ちたい」という理由であつても、見せる相手と方法が必要である。その点 SNS は簡単にたくさんの人に見せることができ、「リツイート、フォロワー、コメント、シェア、いいね」といった反応が数字となって返ってくる。こういった SNS のしくみが、不適切な投稿を生みやすくしているという意見であつた。

生徒たちが、話し合いで不適切な画像投稿の原因・背景を考えることは、その対策も見えてくる。この学びの中で、「情報発信には慎重さが必要」「SNS でも投稿すれば拡散する可能性がある」という知識も実習とまとめを通して得ることができた。

(2) 事例から情報発信の責任を考える

次に情報発信の責任について考えさせてみた。

事例のような不適切な画像投稿の結果、お店どのような影響(被害、損害など)を受け、投稿した人自身もどのような結果となつたか(損害賠償、個人情報さらされるなど)について、これらをまとめた Web (「Twitter での炎上による逮捕者まとめ」<http://uguisu.skr.jp/recollection/twitter.html>)を表示し、重大な結果となつたことを話した。

生徒の「投稿の後どうなったかはあまり報道されないので、たいへんなことになつたのがわかつた。」という感想に代表される通り、影響や責任について知らなかつた生徒が多く、軽い気持ちの発信が重大な影響を与えたことから、情報発信には法的責任・社会的責任が伴うことを実感することができた。

(3) 個人情報特定される仕組みを考える

「ではどうやってこういった画像投稿が広がるのか?」について、次に考えてみた。

「バカッター」「バカ発見機」などのまとめサイトインターネット上で「不適切な画像投稿」を探し保存・公開しているサイトが存在することや、インタ

ーネット上の「特定班」とよばれる人たちが、これら「不適切な画像投稿」をした人物の個人情報を特定し、掲示板などにさらしている構造・現状を説明した。(もちろん特定班の行為についても違法性が高いことも補足した)

この説明の後、「Twitterのような匿名の投稿から個人情報がどのように特定されるのか」について、その方法を3つ考える課題を与え、先ほどと同様の手法で、考え、話し合い、発表させた。



図4 ある班の分析結果

個人情報はどう特定するか？

(K2A・K2B話し合い結果より)

- 位置情報から
 - ツイート・投稿時
- 投稿された写真から
 - 位置情報
 - 制服
- プロフィール
 - あだ名、住んでいる地域
 - ブログのURLから
 - ニックネーム・IDから
- 過去の投稿を遡る
 - つぶやき、会話から
- 他のサイトも調べる
 - 同じIDで他のSNSも調べる
- フォロワー・友達から
 - 交友関係から学校、年齢、地域の特定
 - 友達との会話で名前があるときも・
 - 1人が学校名を出していたら特定できる
 - 他の友達へのコメントの内容から情報を得る

図5 生徒の話し合い結果のまとめスライド2

生徒は「そんなん思い浮かばない」、「やったことないから」と考えるのに苦労していたが、他の人の意見を参考に、いろいろ考えてくれた。

位置情報、画像、プロフィール、過去の投稿といった本人の情報を組み合わせると特定できるところはもちろん、生徒が多く指摘したのはフォロワー・友達から学校・地域・年齢が特定できるというものであった。具体的には「コメントに〇〇ちゃんとよびかけがある」「1人くらいプロフィールに学校名・地域を書いている人がいる」という例があがった。自分がいくら気をつけていても、友達やフォロワーの情報から芋づる式に個人情報が漏れてしまうとい

う指摘である。

ここでの意見をもとに「情報発信をする際に個人情報特定されにくくするにはどうすればいいか」について授業者が知識をまとめた。

この実習についての生徒の感想には「(SNS でつながっている) 友達のためにも、個人情報は書き込まない方がよい」というものがあつた。生徒は個人情報を出すリスクについて理解できたようである。

(4) ネットが匿名ではないことを知る

情報発信の責任についてさらに理解を深めさせるために「ネットは匿名ではない」ことを感じさせる小さな実習を行った。

一つは今接続しているパソコンの IP アドレスを調べる実習である。(下スライド)

ネットは匿名のように見えて・・・

- 実習
 - 「IP検索 自分」で検索
 - 自分のグローバルIPアドレス(ネット上の住所)を確認
- この瞬間、このIPを使っているのは**1人(1機関)しか**ない
 - 捜査機関は簡単に個人を特定可能

ここにプロバイダも載っている

図6 実習の説明スライド

ここで IP アドレスの特徴を「インターネットに接続しているときは必ずこのアドレスが与えられ、この瞬間この番号を使っている人は一人しかない」ことを説明し、捜査機関は IP アドレスから個人が特定可能ということを知識として説明した。

次に自分の名前を検索エンジンで検索して確認させる実習を行い、知らない間に自分の個人情報がヒットしないかについて確認させた。Facebook などの SNS を利用している生徒の中には ID がヒットする者もあり、「SNS のプライバシー設定で検索できないようにできるよ」と補足した。

(5) 自分の情報発信を考える

ここまでの話し合いや実習で学んだ情報発信について必要な知識を、注意事項として整理(下のスライド)し、自分のワークシートに記入させた。

情報発信するときの注意事項

- 匿名であっても発言には責任を
 - トラブル・炎上にならないよう慎重が必要
- ネット上は誰でも見ることができる
 - 家でケータイでアクセスしていても…
- 個人情報を書けない
 - 自分のためにも友達のためにも…
- ネットワークに出ると、消すことは不可能
 - その投稿・写真、一生出回っても大丈夫？
- ネットの世界は大人のルールが適用される
 - 子どもとわからないから、刑罰・民事訴訟の対象に…

図7 注意事項をまとめたスライド

注意事項だけを話すと「情報発信は怖いのでしない方がよい」という消極的な対策になりかねない。

情報は社会を生きる生徒には、これら注意事項を知った上で、より有益な情報発信について考えさせたい。そのことも考えさせたいので、1学期に話し合った情報発信のメリットのスライドを提示し、情報発信の長所を話した。

情報発信の楽しさ・長所

- 近くにいなくても交流できる
 - 懐かしい友人、外国の友人…
 - 知っている人の近況がわかる
 - 「今」がわかる
 - 口コミの情報が伝わる
 - 近所、友人、学校の情報…
 - 共通の趣味・価値観の共有ができる
 - 「いいね」で肯定的な関係、評価してもらえた
- 1学期のK2話し合い結果発表より

図8 情報発信の長所

最後にまとめとして、情報発信の授業の中で学んだこと、思ったこと、考えたことについて、個人のワークシートに記入させ、提出させた。

5. まとめ

今回の授業実践の効果について、最初にあげた授業のねらいから考えてみる。

① 問題行動の画像投稿の背景を考える

実習で不適切投稿の背景を話し合い・共有する中で、これらが起こる原因が見えた。その原因は自分たちと身近な所にあり、もしかしたら自分たちも同様の失敗をする危険性についても考えた。

そしてこれら原因を知ること、「情報発信・写真を載せるリスクを知れた」、「軽く投稿せず、よく考

えて投稿すべきと感じた」(「 」は代表的な生徒の記述内容)と、情報発信に慎重さが必要なことについて理解できた。

② 事例から情報発信の責任を知る

不適切投稿のその後の影響を知ることから、情報発信には責任が伴うことを理解し、不適切な場合には重大な影響を与えることを事例から理解できた。

③ 個人情報が漏れにくい情報発信を考える

匿名の投稿が、インターネット上で個人を特定される方法について想像・調べることで、個人情報が特定されやすい内容について理解できた。

生徒の感想からは「待ち合わせをつぶやいていたので気をつけたい」、「個人情報を出しすぎることは友達にも迷惑をかける」というものがあり、見直すきっかけとなったようだ。

④ 自分の情報発信について考える

それぞれの実習の気づきは、そのまま自分の情報発信を見直すきっかけとなった。また「怖いから情報発信をしない」という結論はほとんどなく、「(他人が)知りたい情報発信し、ネットをいいものに変えていきたい」、「(他人が不快となる)批判的なことは言わない」など、注意点を理解したうえで情報発信をいいものにしたいという積極的な発言があった。

実際に起こった「不適切な画像投稿」の事件を取り上げた授業は、背景を考えることから自分の行動を振り返り、また新たな知識を得ることができ、自分がどう活用していけばいいかを実践的に学ぶことができる授業となった。高校生の多くが SNS による情報発信を行っている中、「不適切な画像投稿を行う生徒を作らない」という消極的な目標で情報モラルを教えるのではなく、賢く情報発信を行うという積極的な目標を立て、「情報発信についてのメディアリテラシー」を育てることは重要である。

本実践が皆様の授業づくりの参考になれば幸いです。なお授業で使用したスライド・ワークシートは筆者 Web にて公開している。

(情報科の授業アイデア : <http://www.okamon.jp>)

参考文献

- 1) 岡本弘之「SNS で問題行動の画像を公開することについて考える」(公財)学習ソフトウェア情報研究センター「学習情報研究」2014年5月号 pp.20-21